

コンサートチケット料金 12,300円(税込)

お問い合わせ・お申し込み 八ヶ岳高原ロッジ 0267-98-2131



セブンイレブン マルチコピー機 セブンチケットでも、コンサートチケットのお取り扱いをしております。
※宿泊プランの取り扱いはございません。
インターネット旅行サイト「セブン旅ネット」でも、宿泊パックのお取り扱いをしております。
※コンサートチケットのみの取り扱いでございます。

セブン旅net

音楽堂までは送迎バスをご利用いただけます コンサート当日は、八ヶ岳高原ロッジ～音楽堂間の送迎バスが、開演1時間前より、また終演後に運行します。

※コンサートのお席は当日、ホール受付にて抽選となります。※曲目・内容は変更になる場合がございます。※就学前のお子さまのコンサートへのご同伴・ご入場はご遠慮くださいませ。

八ヶ岳高原ロッジ 宿泊プラン

お好きな客室をお選びいただける、
リゾートホテル「八ヶ岳高原ロッジ」の宿泊セットプランをご用意。
コンサートの余韻と共に、ゆっくりとおくつろぎください。

宿泊プランに含まれるもの

- コンサートチケット ●ご宿泊 ●ブッフェディナー ●ご朝食
- サービス料・消費税

ブッフェディナー

宿泊プランのご夕食は、明るい雰囲気のレストラン「花暦」での着席ブッフェスタイルです。オードブルからメイン、デザートまで約40種類からお選びいただけます。(フリードリンク)

※お席はご予約されたグループごとに抽選となります。
テーブルによりましては相席になる可能性がございます。



料金表

ルームタイプ/ご利用人数	1名さま	2名さま	3名さま
コンサートのみ	12,300円	—	—
スタンダードA	43,900円	33,400円	—
スタンダードB	48,100円	35,500円	33,000円
スタンダードC	53,600円	38,200円	34,800円
デラックス	57,100円	40,000円	36,000円
ジュニアスイート	73,400円	48,100円	41,400円
スイート	103,100円	63,000円	51,300円

※上記以外のルームタイプもございます。詳しくはお問い合わせください。
※4名さままでご利用可能なお部屋もございます。
※コンサートチケットは、ご予約後のキャンセルができません。
※上記はお一人さま料金です。

西武・そごうの別荘地



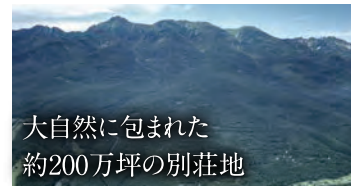
その別荘地は八ヶ岳東山麓、
標高1,500mの森の中にある。

自然の一つとして人が暮らす別荘地

私たちは、人も自然の一部であると考え、自然と共に健やかに暮らしていくために、
この自然郷と名付けた別荘地を、約1,300組のオーナーの皆さまと共に育ててきました。



33万本のカラマツの
成長と共に



大自然に包まれた
約200万坪の別荘地



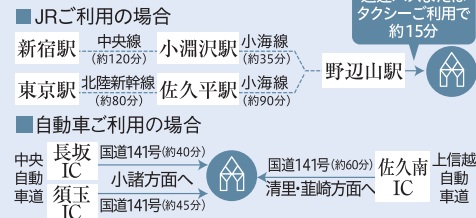
50年の歳月をかけた
自然と共生する別荘地



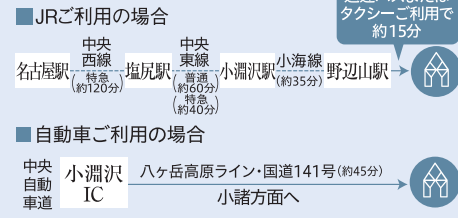
環境庁が提唱する
「鳥たちの森」に指定

交通のご案内 JR小海線・野辺山駅～八ヶ岳高原ロッジまでは、無料送迎バスがございます。(要予約)

[東京方面から]



[大阪・名古屋方面から]



お問い合わせ・お申し込み

八ヶ岳高原ロッジ
〒384-1302 長野県南佐久郡南牧村
八ヶ岳高原海の口自然郷

西武池袋本店5階 八ヶ岳高原情報サロン TEL.03-5979-8480
そごう横浜店6階 八ヶ岳高原情報コーナー TEL.045-465-5577

TEL.0267-98-2131 FAX.0267-98-3133

八ヶ岳高原ロッジ 検索 http://www.yatsugatake.co.jp



THE 500TH YATSUGATAKE KOGEN SALON CONCERT

TBSテレビドラマ 高原へいらっしゃい 放送40周年 ・ 武満 徹没後20年

八ヶ岳高原サロンコンサート 500回記念ガラコンサート

輝く今日と また来るあした



“想い”に育まれて500回 その歴史を音楽でたどる3時間。

レコード鑑賞会にはじまった音楽の集いは、小さな音楽会となり
音楽への想いは、音楽堂の完成、音楽祭の実現へと実を結び
250席の音楽堂は、出会いの場となり、歴史をつくり
受け継がれる音楽の輪は、500回の節目を迎えます

「高原へいらっしゃい」に想いを馳せて

演奏：小室 等、谷川賢作、ゲスト：谷川俊太郎

お早うの朝 ほか

ジャズへの憧憬

演奏：山下洋輔(ピアノ)

ラヴェル：ボレロ ほか

室内楽の悦び

演奏：豊嶋泰嗣(ヴァイオリン)、長谷川陽子(チェロ)、仲道郁代(ピアノ)

ベートーヴェン/ピアノ三重奏曲第7番「大公」

武満 徹の世界 ～没後20年を偲んで～

2016年 7/10 (日)

14:30開場 / 15:30開演

八ヶ岳高原音楽堂

主催：八ヶ岳高原ロッジ

※谷川俊太郎 作詞、武満 徹 作曲「死んだ男の残したものは」一節より

HITOSHI KOMURO



小室 等 ヴォーカル、ギター

1943年東京生まれ。日本のフォーク・ソングの牽引者で、現代詩をフォークに導入した先駆けでもある。八ヶ岳高原ヒュッテが舞台のドラマ「高原へいらっしやい」はじめ映画やTVへの楽曲提供も多数。娘のこむろゆいとの「Lagniappe」や「六文銭'09」等ユニットでのライブ活動も行う。

KENSAKU TANIKAWA



谷川賢作 ピアノ

1960年東京生まれ。ジャズピアノを佐藤允彦に師事。現代詩をうたうバンド「DiVa」、ハーモニカ奏者 続木力とのユニット「パリャーン」での活動や、父である谷川俊太郎と朗読と音楽のコンサートを展開。作・編曲家としても活動し、日本アカデミー賞優秀音楽賞を受賞。

SHUNTARO TANIKAWA



谷川俊太郎 詩と朗読

1931年東京生まれ。1952年、詩集「二十億光年の孤独」刊行以来、詩作のほか、絵本、エッセイ、翻訳、脚本、作詞などで幅広く活動。ドラマ「高原へいらっしやい」テーマ曲の作詞も手掛けた。生前の武満 徹とは20代の頃から親交を結び、武満の楽曲への作詞も数多い。

YOSUKE YAMASHITA



山下洋輔 ピアノ

1942年、東京生まれ。1969年に山下洋輔トリオを結成し、フリー・フォームのエネルギッシュな演奏でジャズ界に衝撃を与える。1988年に山下洋輔ニューヨーク・トリオを結成。世界各国で演奏活動を行う。エッセイストとしても多くの著書がある。八ヶ岳高原音楽堂への出演も多数。

YASUSHI TOYOSHIMA



豊嶋泰嗣 ヴァイオリン

1986年、桐朋学園大学卒業と同時に新日本フィルのコンサートマスターに就任、現在もソロ・コンサートマスターを務める。ソリストとしても国内外のオーケストラと共演。八ヶ岳高原音楽堂へは、リヒテル、武満両氏の監修当時の音楽祭にたびたび出演した。

YOKO HASEGAWA



長谷川陽子 チェロ

15歳で日本音楽コンクール第2位に入賞。1988年桐朋音大に入学し、1989年からフィンランドのシペリウス・アカデミーに留学。首席で卒業後は、国内外での演奏活動に加え、20枚以上のCDをリリースしている。八ヶ岳高原音楽堂へは、リヒテル監修当時の音楽祭から出演を重ねる。

IKUYO NAKAMICHI



仲道郁代 ピアノ

国内外での受賞を経てヨーロッパと日本でデビュー。幅広い活動を繰り広げているが、なかでもベートーヴェンのピアノ・ソナタで卒業後は、国内外での演奏活動に加え、20枚以上のCDをリリースしている。八ヶ岳高原音楽堂へは、リヒテル30周年を迎える。

MAKI TAKEMITSU



武満真樹 司会

上智大学外国語学部比較文化学科卒業。洋画翻訳の他、コンサート企画、テレビ等の音楽番組の進行、エッセイ執筆等を行う。サイトウ・キネン・フェスティバル松本の武満 徹メモリアルコンサート、2008年八ヶ岳高原音楽堂20周年記念公演シリーズ5夜などの企画構成も手がける。

「高原へいらっしやい」に想いを馳せて

演奏:小室 等、谷川賢作、ゲスト:谷川俊太郎

お早うの朝 ほか

ジャズへの憧憬

演奏:山下洋輔(ピアノ)

ラヴェル:ボレロ ほか

室内楽の悦び

演奏:豊嶋泰嗣(ヴァイオリン)、長谷川陽子(チェロ)、仲道郁代(ピアノ)

ベートーヴェン／ピアノ三重奏曲第7番「大公」

出演者による座談会

武満 徹の世界 ～没後20年を偲んで～

企画・構成:武満真樹

詩と朗読:谷川俊太郎 演奏:小室 等、谷川賢作、仲道郁代、豊嶋泰嗣、長谷川陽子

死んだ男の残したものは、雨の樹素描Ⅱ、翼 ほか



武満 徹 (1930-1996)

日本を代表する作曲家。1957年「弦楽のためのレクイエム」がストラヴィンスキーに絶賛され一躍その名を広め、67年「ノヴェンバー・ステップス」の成功で世界的名声を得た。八ヶ岳高原音楽堂では、音楽監督としてリヒテルと交互に4回の音楽祭を手がけた。

1968年、元侯爵 徳川義親邸を譲り受け東京・目白から移築された「八ヶ岳高原ヒュッテ」。翌年からホテルとして開業、76年には名脚本家・山田太一によるTBSドラマ「高原へいらっしやい」の舞台として使用されるなど、自然郷のシンボルとして愛され続けている。サロンコンサートの契機となる「レコード鑑賞会」、「第1回～第5回サロンコンサート」も開催。



1976年「第2回サロンコンサート ハープとピアノの様子（八ヶ岳高原ヒュッテにて）



1976年、名脚本家・山田太一が紡いだTBSドラマ「高原へいらっしやい」の舞台となった八ヶ岳高原ヒュッテ

谷川 俊太郎
八ヶ岳高原音楽堂に寄せて(08年)

無から生まれ出た音楽というものは人間を縛る意味から解き放たれたその無垢に神話を生きたる憎めない神々さながら酔いしれて私たちの夜は更けていくのだ

つかの間私たちは集う

刻むのをやめて時間が渦巻き始めるところ喜怒哀楽を超えて魂がみずから見出すところ決してとどまることの出来ないその場所に

木々の緑をホリゾンとして地平をのぞみここではフォルテッシモで断ち切られる音も

ピアノッシモで消え去っていく音も波紋のように未来へとひろがる

宇宙に澄まされる精密な耳は

絶え間ない雑音の中にかすかな信号を聞き取るという音楽の始まる前の静けさに抱かれて

私たちの鼓膜は見えない指の愛撫を待っている

私らは明日を夢見ている

木立をそよがす風が音楽のふるさとへと吹き渡るとき

からだを脱ぎ捨てた親しいものたちの思い出に

※八ヶ岳高原サロンコンサートは、1975年～1979年は八ヶ岳高原ヒュッテにて、1980年～1988年は八ヶ岳高原ロッジにて、1988年9月以降は八ヶ岳高原音楽堂にて開催 ※黄字は八ヶ岳高原音楽祭。()内は音楽監督。



ろうそくの灯とともに八ヶ岳高原ロッジのロビーで行われていた公演は今や伝説に。1984年「第12回サロンコンサート スヴァトスラフ・リヒテルを150人で聴く八ヶ岳高原の夕べ」